

令和5年度第1回狭山市スポーツ推進審議会会議録

開催日時 令和5年6月29日（木）
19時から20時15分まで
開催場所 301会議室
出席者 池森委員、宮坂委員、木谷委員、高瀬委員、新井委員、大野委員、星委員、
村川委員、梅村委員
欠席者 太田委員
事務局 滝嶋教育長、内藤生涯学習部長、河井スポーツ振興課長、伊吹主幹
傍聴者 なし

議 題

(1) 令和4年度社会体育関連事業報告について

第3次狭山市教育振興基本計画に基づいて行った、令和4年度の事業について、実績報告書を基に説明をした。

質 疑

- 委 員 資料5ページ目、下欄に、中学校の部活動に対する指導員・支援員の記載がある。中学校に8名の部活動指導員、29名の部活動支援員とあるが、詳細がわかるようであれば聞きたい。
- 事務局 部活動指導員8名は各中学校へ1名ずつの割り当てとなっている。種目は、バレーボールが3、ソフトテニス1、陸上競技1、剣道3となっている。外部支援員29名については、野球、バレーボール、バスケットボール、ソフトテニス、卓球、剣道、バドミントン等の種目に対し、支援員が配属されており、各校からの要請により、振り分けられている様子である。
- 委 員 外部からの派遣が増えてくると思うが、狭山市は他の市町村と比べてどのような状況なのか。人数としては現状維持となるのか、増やしていく方向であるのか、方向性はいかがか。
- 事務局 部活動支援員は学校の教育現場に入ってくる形になるので、教育委員会で予算を計上していくものとなる。学校の規模にもよるが、今後学校から指導してもらいたい競技の要望を聞いていくことになるのではないかと考えている。
- 事務局 部活動指導員は各校1名、支援員は各校3名で配置している。この方たちは先生とともに学校の部活動指導を行っている。後ほどの議題にもあるが、部活動の地域移行にあたって、市によっては部活動指導員を増やす方向であったり、学校とは切り離して地域のスポーツクラブに子供たちが参加するという形を目指す方向もある。
- 狭山市ではどのような方向がふさわしいのか、受け皿となる地域の活動が

どのくらいあるのか、また、現在学校の部活動が成り立っているのだから、そこに指導者が別途入ることによって良しとなるのか、今後検討していかなければならない。

委員 学校からの要請に対して、予算措置して配置ということか。今のところ先生方のなかで指導が可能ということであれば良いが、専門的な指導者が足りないという競技に指導員等を入れていただきたい。

事務局 どの競技に人員を必要としているかは学校と相談して調整している。予算の範囲になるが、人数は多いほど喜ばれることは事実である。

委員 スポーツ振興課が開催している教室の種目は毎年見直ししているのか。

事務局 毎回教室を実施した際に参加者からアンケートを取っており、やってみよう種目など聞き取りしている。バドミントンやテニスなどは希望が多く、毎年開催しているが、午前・午後・夜間などに、開催の時間帯を年度により変更するなどして、参加者のライフスタイルを考慮して企画している。

委員 教室の充足率はどのような状況であるのか。また、教室開催後に、発展してサークル化したようなケースはあるのか。

事務局 定員に対しての参加率というものであれば、アクティブチャイルドプログラムやキッズダンス、親子ボウリングなどは定員を下回った結果となっている。児童向けの教室であれば、広報掲載ではなく、学校側にお手数を掛けるが、チラシを児童に配布することが効率的な周知となる。

サークル化については、何年か前にはサークルが立ち上がったという報告があった。昨年度武道館でヨガ教室を開催した際には、参加者が継続して活動したい、という相談があったとの報告を受けている。

委員 バドミントン教室で指導補助を行っているが、昨年度午前中に開催した教室では幼稚園児の保護者の参加が多かった。子供がまだ小さく時間が取れないので、サークルを作るまでにはいかないようであった。1回やって終わりではなく、継続的にやっているサークル等を紹介するなど、発展させていけるように支援されると良い。

委員 学校体育館を利用しているが、学校や体育館が改修されてトレイも綺麗になっている。その中で御狩場小学校の体育館だけが和式トイレのままである。改修工事の予定は無いのか。

事務局 学校体育館のトイレの改修工事については、耐震化工事と併せて行ってきた。御狩場小学校の体育館は耐震基準が適合していることから、改修工事を実施していない状況である。ご意見として承りたい。

議 題

(2) 中学校休日部活動の地域移行について

スポーツ庁からの「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」及び「学校部活動の地域移行に関するアンケート調査」

について説明した。

質 疑

委 員 部活動についてはそれぞれの地域で行うと、10年以上前から言われていた。地域移行を現実に振られた行政は大変なことになっていると思う。スポーツ指導者がいれば必ずしも良いということではなく、何らかのチェックも必要となる。また、やる以上は資金も必要となる。教わる生徒達が被害を受けないように、支払う基準を明確にし、支払いを受ける側も研修を受けて最低限の知識を持ってもらわなければならない。

委 員 活動拠点は基本的には中学校となるのか。

事務局 学校の授業に支障の無い範囲で体育館は開放している現状である。地域クラブ活動として学校を使用する際に調整が可能であるのか。グラウンドでも野球やサッカーなどを一つの学校での活動が可能であるのか。狭山市でどのような形が適しているのか、協議が必要である。

スポーツ協会やスポーツ少年団の方々と交えた協議会等を設置していく必要も視野に入れながら、今後検討していきたい。

委 員 狭山市では総合型地域スポーツクラブが少ない。国が推奨している平均に乗り遅れている感がある。地域で行っていくことが当たり前、みんなでやっ
ていかななくてはいけないということが定着すれば、上手く機能していくのではないか。

委 員 権限を持って束ねるコーディネーターとなる人が必要ではないか。ある程度権限を持って全体を束ねるような人がどこに属するのか、学校関係者であるのか。国で行っている実証実験のパターン等が複数あるので、それを改善すれば良いのでは。

事務局 学校からは切り離して行くことが目標である。休日の部活動は学校に責任を持ってもらうのではなく、違った活動ができるということが、この考え方の基礎ということで示されている。

事務局 休日クラブ活動については市区町村が音頭を取る。大学や民間事業者の派遣、総合型地域スポーツ施設に通うなど、白岡市や上尾市では民間事業者が指導員を派遣しているが、すぐには難しい。生徒が犠牲にならない形でやらなくてはならないが、誰が主体となるのかも含めて、狭山ではまだ形になっていない。

委 員 例えばバスケットボールとして、平日5日は学校で活動し、土日はクラブチームに参加するなど、別々の活動となるイメージなのか。

事務局 そのようになると言われている。平日は学校、休日は地域のクラブに参加したときに教え方が違うなど、今回学校教職員を対象に回答をお願いしているアンケートでも色々な課題が指摘されている。平日はサッカー、休日はバスケットボールという活動も可能になるが、試合になった時にチームプレイ

が可能となるのか等、問題が出てくる。状況や説明が市に来ていないが、実証事業が行われる予定であるとのことなので、それらの結果を踏まえて検討していく方針である。

委員 スポーツ少年団で小学生にミニバスを指導しているが、6年生まで活動をして、その後中学校の部活で活動するのか、クラブチームに入るのか相談を受けることがある。真剣に強くなりたい子はクラブチームに入るが、埼玉では強いチームが無いことも現状。部活で活動意欲が低くなってしまいう子もいる。

委員 小学校は週1回必修クラブの活動がある。中学校でも必修クラブとして授業の中に入れるなどしてはどうか。週3から4日活動し、本気でやりたい子はクラブチームに入るなど、線を引いてしまった方がわかりやすい。子供が自分で選択することも良いのでは。

委員 以前に、横田基地の子供たちとバスケットボールの対外試合をさせようと、狭山市の中学生が基地に赴き実施したことがある。運動能力やパスワークの違いもあったが、校長先生からは満足された感想があった。体力テストの結果からは、狭山市は全国平均からやや劣る。子供たちの成長に合わせた段階的な指導が必要と感じる。学校から地域へ、受け入れる人たちの知識、ルール作り、保険加入など色々整備しなくてはならない。

委員 部活動地域移行を進めていく上では、教育的視点で考えることが重要な課題となる。また、指導者を守る視点も重要である。

会議資料

- ・令和5年度第1回狭山市スポーツ推進審議会 次第
- ・令和4年度社会体育関連事業実績報告
- ・中学校休日部活動の地域移行